

徳島県

定 数 : 3 名

立候補者数 : 3 名



氏名 鷲 春夫

氏名ふりがな うぐいす はるお

都道府県士会 徳島県

年齢 60

勤務先名称 徳島文理大学

日本理学療法協会活動歴

1997年4月～現在 徳島県理学療法士会 代議員
1999年7月～2003年6月 保健福祉部委員（四国ブロック代表）
2014年6月～2015年6月 広報啓発業務執行委員会委員
2015年6月～2017年6月 将来構想戦略会議・教育対策本部委員
2017年6月～現在 倫理委員会委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

1991年4月～1993年3月 教育部委員
1993年4月～1995年3月 老人福祉部部長
1995年4月～2008年3月 地域リハビリテーション部部長
2008年4月～2014年3月 副会長兼社会局局长
2014年4月～現在 会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～現在 日本理学療法管理研究会（2022年から日本理学療法管理学会）
評議員
2021年～現在 日本予防理学療法学会 評議員（現在に至る）

立候補の趣旨

平成26年度から県理学療法士会会長となり、公益社団法人を取得し公益事業の推進に力を入れてきました。徳島県下の市町村の地域包括ケアシステムの充実等に貢献した結果、令和5年10月には徳島県庁で常勤の理学療法士が雇用され、令和6年4月からは鳴門市役所でリハ専門職として理学療法士が雇用された他、基金事業や県のモデル事業の委託も大幅に増やすことができました。
学術面では令和2年4月から徳島県医師会館内に事務所を設置し、オンラインで研修会等を開催できるシステムを構築し、会員が無料で参加することができる学会や研修会、勉強会等を充実させ、会員の質の向上に努めました。
本会がさらなる躍進を図るためには、協会と一体となり事業を展開していくことが重要であると考え、今回も代議員に立候補することとしました。代議員となり、協会の意向を十分理解するとともに、士会の意向を協会に積極的に反映していただき、円滑な士会運営を行いたいと考えています。



氏名 後藤田 晶
氏名ふりがな ごとうだ あきら
都道府県士会 徳島県
年齢 54
勤務先名称 吉野川医療センター

日本理学療法協会活動歴

令和元年 第54回日本理学療法学会 特別企画部 部長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成29年度～ 徳島県理学療法士会 理事
平成29年度～令和6年度 徳島県理学療法士会 学術部 副部長
令和4年 第50回四国理学療法士学会 副準備委員長
令和7年度～ 徳島県理学療法士会 生涯学習部 副部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

理学療法士は急増し、2040年には供給数が需要数の約1.5倍になると推測されています。理学療法士協会の活動は、躍動的に展開されていますが急激に増加する理学療法士を受け入れるには、まだ、組織基盤は安定しているとは言い難いと考えています。それは、徳島県理学療法士会理事を務めさせて頂く中で、人材育成、地域社会への活動を通して、多くの事を学んだと同時に、様々な問題も増えてきたからであります。また、現在、私は急性期病院の管理職として勤務していますが、待遇面、職場環境など解決すべき課題に対峙しています。理学療法士の強みを臨床現場や社会に活かせるには、まだ、様々な課題が多くあります。それらの課題に対して、日本理学療法士協会は、理学療法の価値を高め、社会ニーズに応える活動展開を目指して、2040年までの施策とロードマップが提示されました。そこで、徳島県理学療法士会理事の経験と急性期病院勤務の現場の意見を代議員として、日本理学療法士協会、協会員の皆様に少しでも貢献したい決意でございます。



氏名 松浦 康
氏名ふりがな まつうら やすし
都道府県士会 徳島県
年齢 51
勤務先名称 専門学校 健祥会学園

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成29年～現在 徳島県理学療法士会 スポーツ部 部長
平成29年～現在 徳島県理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は、養成校の教員として理学療法士養成に係るとともに、スポーツ現場において活動してまいりました。また現在は、徳島県理学療法士会理事およびスポーツ部部长として9年間務め、県士会運営と会員活動の推進に関わっております。これらの経験を通じ、理学療法士を取り巻く制度・環境・社会的期待の変化を、現場と組織の両面から実感してきました。このたび、そうした現場の声を全国レベルの議論に反映させたいとの思いから、日本理学療法士会代議員に立候補いたしました。徳島県理学療法士会理事・スポーツ部部长としての活動を通じて、会員が日々の臨床や業務に追われる中で、制度改正や職域拡大、学会・士会の方針が十分に共有されにくい現状に直面してきました。また、若手理学療法士や多様な分野で活動する会員が、自身の専門性をどのように社会に生かしていくのか、将来像を描きにくいという声も多く聞いてきました。一方、私は、学校スポーツや競技現場に関わってきました。そこでは、外傷・障害予防やコンディショニング支援のみならず、指導者や教員、保護者との連携、さらには成長期の心身発達を踏まえた関わりが求められます。こうした経験から、理学療法士の専門領域は医療だけに限りません。スポーツ、地域包括ケア、学校保健、産業領域など、国民の健康を支える幅広いフィールドがあります。しかし、現場の可能性に対して制度整備や社会の理解が追いついていない場面も多く、そこには職能団体として議論を深める余地が大いに残されています。理学療法士がより社会に貢献し、信頼され、専門性を発揮できる環境を整えるためには、現場の意見を制度づくりに反映させることが不可欠です。私は、代議員として誠実にその責務を果たし、理学療法士の多様な働き方、広がる職域、そして地域・教育・スポーツが連携した未来をともに創り上げていきたいと考えています。何卒、ご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。